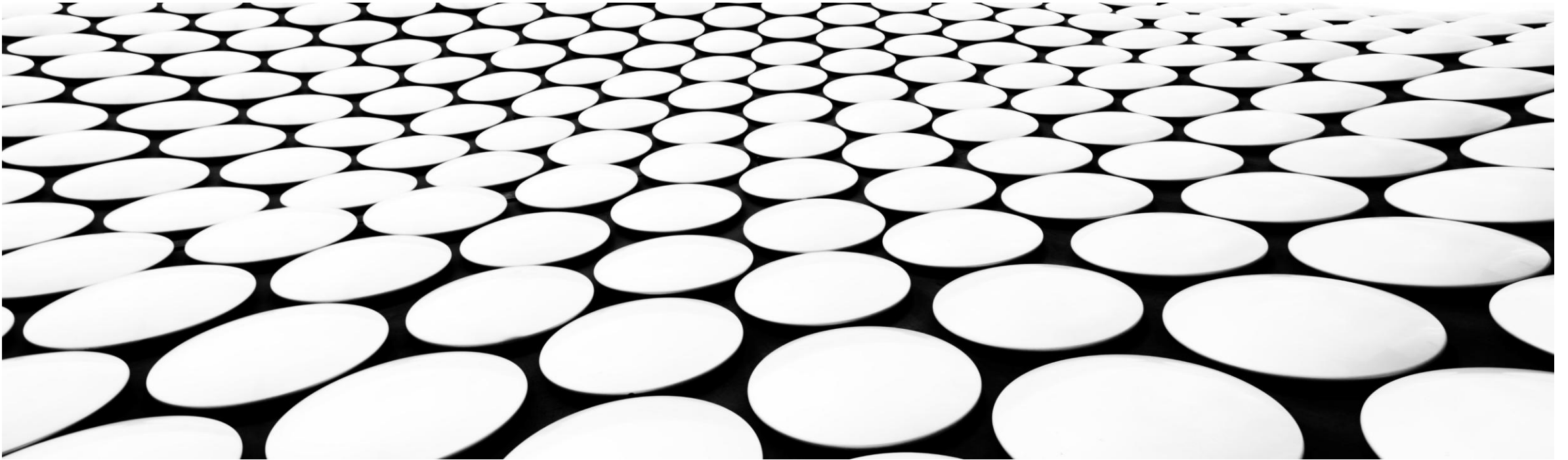


全校体制で取り組む 通常の学級を含めた特別支援教育

～児童の「つながり」を構築する活動を中心とした支援～



R8.10.16

新発田市立御免町小学校

教諭 田邊美紀

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

- (1) 課題解決3主任会について
- (2) 支援の実際
- (3) スクールカウンセラーとの連携
- (4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

- (1) 学級づくりに関わること
- (2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

I 実践にあたって

自校では、通常学級において支援を必要とする児童がいる際、その児童の困り感がどこにあるのか、どこに発達上の課題をもつのかをできるだけ早く把握し支援を始められることを目指し、体制を整えてきた。また、支援内容を考える際には、障害の有無や在籍学級にかかわらず、特別支援教育の視点をを用いることを継続して行ってきた。同時に様々な場面で、集団活動や対人関係づくりに課題をもつ児童のつながりを構築する活動や環境づくりに取り組んでいくことで、通常の学級に在籍する支援が必要な児童を、全職員で幅広く見守ることにつながっている。

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

(1) 課題解決3主任会について

(2) 支援の実際

(3) スクールカウンセラーとの連携

(4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

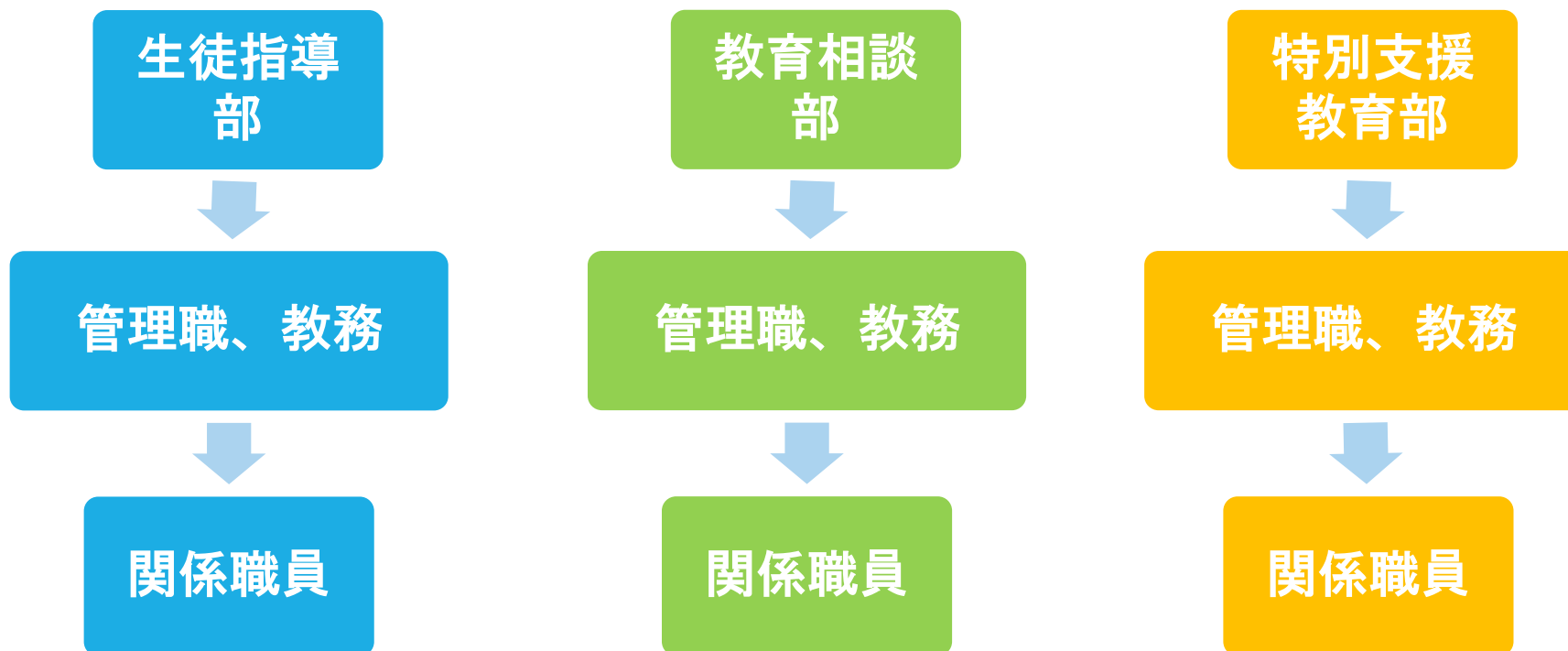
(1) 学級づくりに関わること

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

1 課題解決 3 主任会について

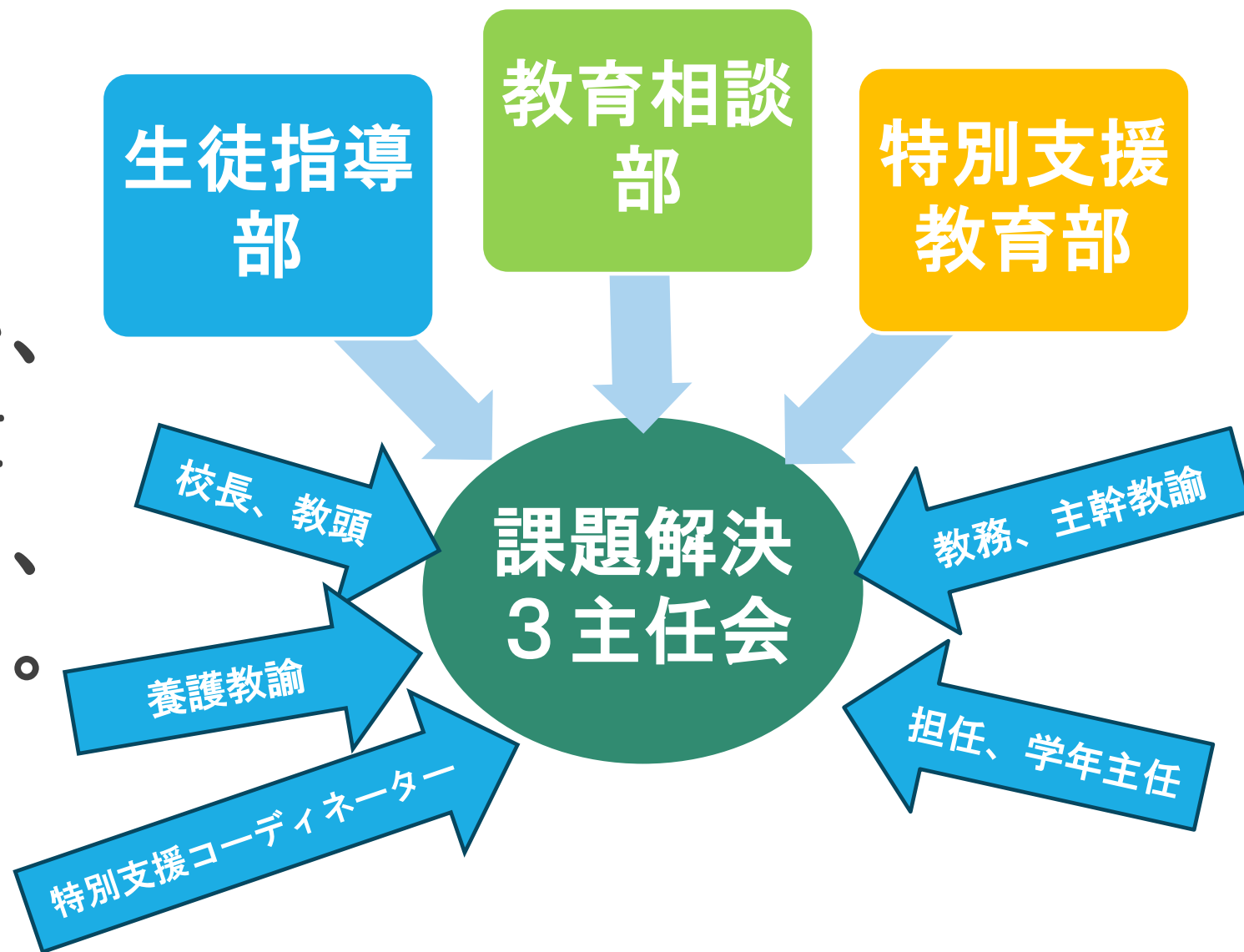
R4までの
体制



一人の児童の抱える困り感はどこにあるのか、どの部
がその児童の支援を中心になって考えるのかを、すぐに
決められない。判断が難しい。

R5からの体制

各部の主任が揃い、
様々な視点から児童
を見て困り感を探り、
支援の方法を考える。



課題解決3主任会の理念

【基本理念】

障害の有無や在籍学級にかかわらず、困り感を抱える全ての児童に支援する。

【役割】

- ・ 困り感を抱える児童の情報共有
- ・ 困り感による問題行動に対する初期対応
- ・ ケース会議

課題解決3主任会の構成

生徒指導部

- ・担任や学年主任と、問題行動の状況について共通理解し、情報提供

教育相談部

- ・担任や学年主任と、登校しぶり等の状況について共通理解し、情報提供

特別支援教育部

- ・特別支援学級在籍児童に関する情報提供
- ・就学後の支援に関する情報等の提供

養護教諭

- ・学校全体の欠席者や、保健室利用児童の状況を報告
- ・保健室をよく利用する児童について、担任と共通理解しながら対応していることについて情報提供

保護者との面談が必要になったときは、この中から適任者を考え、参加する。

校長

支援方法の決定

教頭、教務、主幹教諭

- ・日常生活や授業での見取りを伝達
- ・放課後登校や迎え等が必要になったときに援助
- ・外部機関との連携

特別支援コーディネーター

- ・ケース会議の計画
- ・保護者との面談や外部機関との連絡・調整

担任、学年主任（ケース会議のとき）

- ・日頃の児童の様子の情報提供
- ・日々の支援

課題解決3主任会のもち方

- ・司会 生活指導主任

各部より、気になる児童の情報提供を行う

（特別支援Coが情報収集をし、話題提供することもあり）

① 困り感の共有

② 支援方法の検討

- ・記録を残し、共有のフォルダで管理→全職員が閲覧可能
- ・会議後、必要に応じて保護者との面談、関係機関との連携、担任への支援を開始する。

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

(1) 課題解決3主任会について

(2) 支援の実際

(3) スクールカウンセラーとの連携

(4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

(1) 学級づくりに関わること

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

2 支援の実際

Aさんの場合

- 前年度、算数の学習に難しさを感じることがあったが、出席停止以外の欠席はほぼ無かった。
- 新年度4月に体調不良と感染症が重なり、年度初めに登校できない状況が続いた。クラス替えがあり、人間関係に変化があったり、年度初めの学習に遅れたり、様々な要因が重なって登校が難しくなった。

支援内容を決定するにあたって

課題解決 3 主任会の中での、Aさんについての見取り

本人の思い「苦手教科が分からない」→「他の勉強も分からなくなってきた」

①学年の初めに欠席したためか、**集団に入るのが難しく**なっているのではないか。

②次にどうしたらよいか分からなかったり、**やりたいことを選択したりするのが難しい**のではないか。

③**気持ちの表出に困難さ**を抱えているのではないか。

支援内容を決定するにあたって

Aさんの当時の困り感の背景には、特別支援教育を受ける児童の特性と似たものがあると分かったため、支援する際の前提として、**特別支援教育的なアプローチ**を試みることにした。

特別支援教育的なアプローチ

- ☆ **見通しをもてるように**、予定や考えてほしいことをあらかじめ伝えておく。
- ☆ **自分でどうするか選べるように**、選択肢と、各選択肢の特徴を提示するようにしておく。

困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

3 主任会で検討した支援案

1 放課後登校

友達と一緒に放課後学習することを含む

2 本人が居られそうな場所で学習する

3 車野校（新発田市教育支援センター）へ行く

困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

Ⅰ 放課後登校

友達と一緒に
放課後学習することも含む

3主任会

担任、学年主任、学年部職員、教務主任、
前年度学年職員、教頭など、本人が関わ
りのある職員で、登校時の役割を分担

本人 「学習への不安」がある。学校に来られない。
担任 放課後、本人が選んだ学習をすることを提案
本人 1時間程度の放課後登校をする。
担任 見通しがもてるように、下校前に翌日の予定を本人と
立てる。本人の希望を聞きながら、友達とも交流

困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

2

本人が
居られそうな場所で
学習する

3 主任会

- ・ 本人が居られそうな場所を検討
- ・ 養護教諭が従来の業務との両立を調整

担任	「どこなら学習できそうか」	本人の気持ちを確認
本人	人に会わないところ（相談室）を希望	
担任	安全上、保健室や職員室を提案	選択肢を提示
本人	数日は登校できなかったが、様子を見守る	
	その後登校したときは、どこなら居られるか	本人の気持ちを確認
	職員室か保健室かを自分で選ぶ	

困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

3

車野校

(新発田市教育
支援センター)

へ行く

★**新発田市教育支援センター「車野校」**を紹介する。
(車野校…不登校傾向の児童が、学校の代わりに登校することができ、新発田市の施設)

3 主任会

- ・家にこもってしまうより、誰かと一緒に過ごせる車野校の方が、本人の気持ちが楽になるのではないか。
- ・車野校で、自分の「やりたいこと」を決めて、そこでどんな風に過ごすか自己選択するのはどうか。

3学期始め、登校が難しくなる。保健室でもあまり活動ができない状況→1月末、保護者との面談で車野校を紹介。まず、保護者が見学。

保護者「本人は『車野には行きたくない』と言っていた。」

担当「初めての人と関わるプレッシャーはあると思う。でも学校に行けない自分も、車野に行けた！と思えば、自信を付けられるはず。車野校は、人との関わり合いができるところに戻ってくるための場所として考えるのはどうか。本人に詳しい情報を与えた上で決めるのはどうか。」

見通しをもてるよう、特支COが車野校に行っている同学年児童から聞いた情報を、紙面で提供。

保護者は、持ち帰り、本人と共有→後日、本人も一緒に見学

困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

見通しをもてるように、どのような場所でどんなことをするか、あらかじめ紹介

車野校って、こんなところ

R6、1

- ・楽しいところ
- ・きまりがきびしくない。
- ・宿題がない。
- ・いろいろな遊びがある。本もある。
- ・給食の代わりにお弁当を食べる。(レンジで温められる。)
- ・登校した日は、シールをはる。

1日の流れ

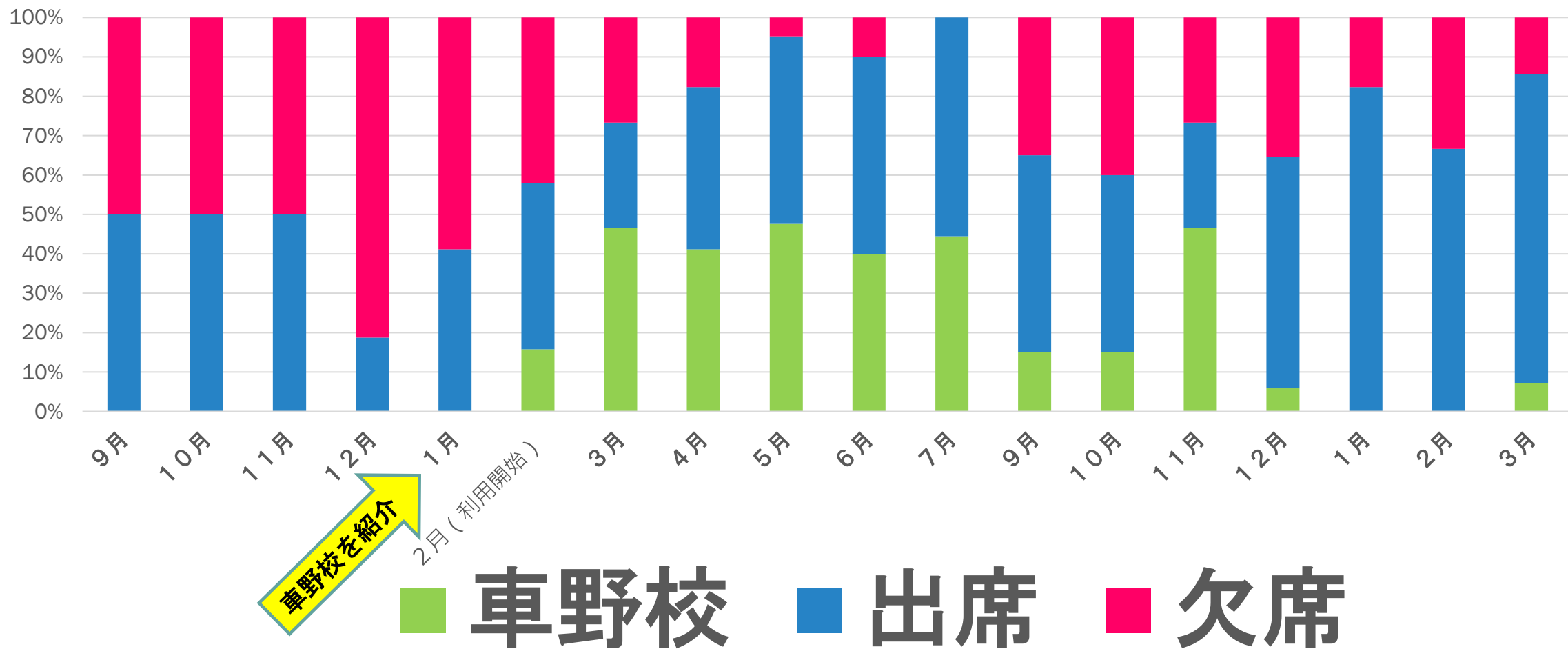
登校
↓
自由時間
↓
集中時間
↓
お弁当を食べる 12:30~13:00 席は自由
↓
13:00~集中時間 (みんなで活動する)
↓
13:45~14:45 体育 (毎日) ※ソーシャルス
キルトレーニングの日もある。
↓
終礼、下校

水曜日 イクネスで「おとなカフェ」に参加する。
車野校からバスに乗ってみんなで行く。
他の場所から来る人も、カフェだけ来る人もいる。
ジュースを飲みながら、おしゃべり、ジェンガ、人狼ゲームなどで遊ぶ。
決まった時間に解散。居たい人は、その後も居てもよい。
月曜日 15:40 カルチャーセンターにバスが到着→イクネスに行く。
水曜日より人数は少ない。自分が居たいだけ居てもいい。



これなら行ける
かも…。

車野校の利用を始めてからの出席の変化



困り感①集団に入るのが難しくなっているのではないか。

支援の成果

◎**本人と相談しながら関わる対象や場所を決めた**ことにより、
安心する相手と自分から関わることができた。

○教室だけでなく、保健室で少人数のクラスメイトと関わったり、車野校を選んで自分のペースで過ごせたりすることは、不安が少なく自信を付けられたのではないか。

○行事等の参加の仕方、常に担任や関係職員と相談しながら決めたので、自分のペースを守りながら学校とつながることができたのではないか。

困り感② 次にどうしたらよいか分からなかったり、やりたいことを選択したりするのが難しいのではないか。

最近、あまり学習に集中できていない状況をどうすればいいかな…。



養護教諭、担任

3主任会

いくつかの選択肢を提示して、自分で学習内容を決めて取り組むのはどうか。

養護教諭

「あんまりドリルとか進まないけど、どうしたい？」

本人「…」

養護教諭

「SSSの先生がお手伝いして欲しいって言ってるけどやってみる？」

「掃除の分担カードを作らなきゃならないんだけど、手伝ってくれる？」

困り感② 次にどうしたらよいか分からなかったり、やりたいことを選択したりするのが難しいのではないか。

3 主任会→各担当との話し合い→養護教諭や担任から提案した支援案

1 教務室で
自分ができる
仕事をする

↓
スクールサポート
スタッフの仕事の
手伝いに
一生懸命取り組む

2 一日の予定を見て、
どの時間なら教室に
行けるか選ぶ

↓
体育や理科などの自分の
好きな授業や、行事の見
学、時間を短くしての参
加などができた

困り感②次にどうしたらよいか分からなかったり、やりたいことを選択したりするのが難しいのではないか。

支援の成果

◎自分でやりたいことを選ぶのが難しくても、誰かのためになる課題なら選択しやすく、自主的に活動できた。

◎職員に、「できたね」と認められたり、誰かの役になっている有用感が得られたりしたことで、前向きに活動できた。

困り感③ 気持ちの表出に困難さを抱えているのではないかな。

担任や養護教諭 「学校のことでは何が苦しい？」
→本人「分からない」



3 主任会で検討した支援案

1
自分の気持ちを
を表出するた
めの支援

2
通級教室で
の支援

3
進学に
あたっての
支援

※担任や学年主任から保護者や本人へ説明し、方法を相談しながら実施

困り感③ 気持ちの表出に困難さを抱えているのではないか。

- Ⅰ 自分の気持ちを表出するためには、自分の気持ちを客観的に知ることが大切ではないか。
→自分の気持ちを客観的に知ることによって、辛さを緩和したり、自分で対応策を考えられるようになるのでは。

1 自分の気持ちを表出するための支援

※養護教諭が本人へ意図を説明して、始めは一緒に聞き取りながら保健室で実施

養護教諭が
作成した見取
りシート



特別支援CO
や関係職員に
相談し、作成

今日の成果

月 日 ()

	やったこと・できたこと
朝学習	
1時間目	
2時間目	
3時間目	
4時間目	
5時間目	
6時間目	

今日の体の調子は？

とても元気！ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 すごく悪い

今日の気持ちは？

スッテキにここに 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 すごくぐらくて、何もできない

養護教諭は、マイナス
な気持ちでも、自分から
数値で表出できたことを
価値付けた。

「調子が悪くても、頑
張って来たね。ここまで
できたね。」

2 通級教室での支援

3 主任会で検討したこと
担任や養護教諭から見ると…

完璧にできていないと、集団に不安を感じやすい

→ 多様な価値観に触れる機会や、個別指導が必要

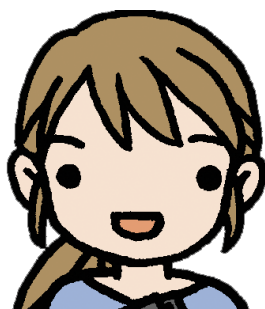
→ 通級指導の提案をするのはどうか。

【ねらい】 子ども同士の学習や活動をとおして多様な価値観に気付き、楽しく関わることで対人関係に自信をもてるようにする。

2 通級教室での支援



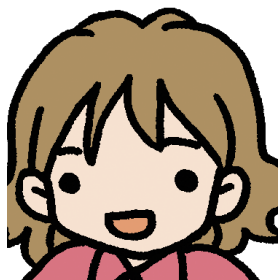
通級担当



特別支援Co



養護教諭



担任

通級教室
では、こんなことが
学べるよ。

通級教室って、どんなところなんだろう…？



行ってみようかな…。

教室＋保健室＋
通級教室（グループ支援）

他の学校の様子を聞いたり、自分の不安について話したりして、お互いの悩みに共感したりアドバイスをし合ったりしていた。この活動を毎回楽しみにしていた。

→【成果】通級のある日は、必ず登校できた。



3 進学にあたっての支援

進学にあたって、分からないことや心配なことがあっても、表出しにくいのではないかな。

→特別支援Co、担任、養護教諭、保護者、本人で面談を行うことを提案

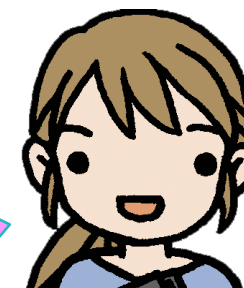
【ねらい】不安なことを表出して、気持ちを楽にしてほしい。

- ・本人、保護者の気持ちを聞く。
- ・通常学級以外の居場所等についての情報提供
- ・今までの頑張りと成果を伝え、励ます。

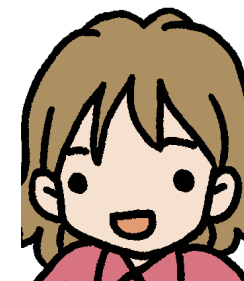
もしも、クラスで学習するのがつらくなったらどうしよう…？

中学校の支援学級って、どんなところなんだろう…？

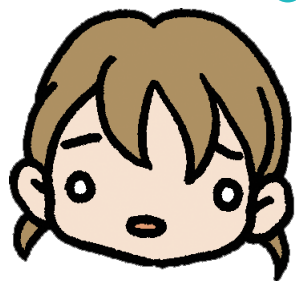
中学校ではこんな過ごし方になるよ。
困ったら、こんな場所があるよ。



特別支援Co



担任



担任と特別支援Coなどが見取ったり聞き取ったりした本人の困り感に合わせて、保護者も含めて面談等を行う。

困り感③ 気持ちの表出に困難さを抱えているのではないか。

支援の成果

◎養護教諭の見取りシートで、マイナスな気持ちも価値付けられた。

◎通級指導のグループ支援で、自分だけが不安ではないということが分かり、楽になった。

◎進学への不安を、保護者と職員で共有できた。

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

(1) 課題解決3主任会について

(2) 支援の実際

(3) スクールカウンセラーとの連携

(4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

(1) 学級づくりに関わること

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

個別支援ができるようにするための取組

(3) スクールカウンセラーとの連携①

☆スクールカウンセラーによる、児童がお互いの気持ちを表現し、自己理解を深める授業

R5年度 6月実施

5・6年生対象「マイナスな気持ちは大事なサイン」

「マイナスな気持ちを表出できず、苦しんでいる高学年児童が多いのではないか」という担任やSCの見取りから、各クラスで実施した。

マイナスな気持ちは 大事なサイン

- 1 いろいろな気持ちがある
- 2 いやなことがあって なやむとき
- 3 マイナスな気持ちをおさえこむと どうなるか
- 4 なやんでもいい、相談しよう

マイナスな気持ちは自分を守るための
大事なサインです

怒り：自分の心と体を守る
恐怖：危険を避けることができる
悲しみ：思いやりを持つことができる
心配：計画的に行動することができる

個別支援ができるようにするための取組

(3) スクールカウンセラーとの連携②

☆スクールカウンセラーによる、児童がお互いの気持ちを表現し、自己理解を深める授業

R6年度 11月実施

3年生対象

「断る方法いろいろ（断る練習をしよう）」

4年生対象

「いろいろな考えがあるよ（「話し合って協力する」ってどういうこと?）」

学年全体の問題に対して必要なソーシャルスキルや、今後必要になるであろうスキルを学ぶために、各学年からSCへ学習内容の希望を伝えた。

個別支援ができるようにするための取組

(3) スクールカウンセラーとの連携③

☆スクールカウンセラーによる、児童がお互いの気持ちを表現し、自己理解を深める授業

こころあっぷタイム

JICAP

年 組 名前

だい かい
第1回

「こまったきもちをつかまえよう」

それでは、こころあっぷタイムを始めようぞい！みんな準備いいかな？

はい！

おねがいします！

ヨロシクな!!

チャレンジ・タイム

チャレンジタイム・・・こころあっぷタイムで新しいことにチャレンジしてみよう。

「きもち」には、いいきもちといやなきもちだけでなく、いろいろな種類があるぞい。自分になったことのある「きもち」を○で囲んでみよう！

いいきもち	いやなきもち
● うれしい ● しあわせ ● たのしい ● ホッとした ● きもちいい ● まんぞく ● すき ● やる気まんまん ● かんしゃ ● わくわく ● うきうき ● ぼこらしい	● しんぱい ● 心配 ● こまった ● 不安 ● こわい ● おちこみ ● がっかり ● いかり ● イライラ ● はずかしい ● ふまん ● かなしい ● おびえる

ホーム・アクティビティ

なまえ ()

ホーム・アクティビティ・・・こころあっぷタイムで学んだことを、学校や家で試してみたい練習のことじゃ。

次のこころあっぷタイムまでに、「きもちセンサー」を使ってあなたのいいきもちを1つ探してほしいのじゃ。見つけられたら、そのときの場面ときもちの種類と大きさを書くのじゃ！

☆いいきもちがあった場面ときもちの種類と大きさを書いてみよう。

例:キミちゃんの場合

場面	きもちの種類	きもちの大きさ
クラスのお友だちといっしょに、ショッピングに行った。	うきうき	(70)

あなたの場合

場面	きもちの種類	きもちの大きさ
		()

R7年度6月実施

4・5年生対象

「こころあっぷタイム」(同志社大学メンタルヘルス教育

プログラム教材 ©2017Shin-ichi Ishikawa & Yoko Kamio)を用いた学習

児童同士のつながりや所属感を高める活動 【スクールカウンセラーとの連携】の成果

①スクールカウンセラーの授業により、通常学級の担任も、心理学に基づいた「お互いの気持ちを認め合う集団づくり」の考え方を学ぶことができた。また、授業後も学習内容を継続して振り返り、学級での困り感の解決に役立てることができた。

②スクールカウンセラーの存在が身近になり、困り感がある時の相談相手として、児童自らカウンセラーを選ぶことができた。（高学年女子を中心に。保護者の了解を得て実施）

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

- (1) 課題解決3主任会について
- (2) 支援の実際
- (3) スクールカウンセラーとの連携
- (4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

- (1) 学級づくりに関わること
- (2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

個別支援ができるようにするための取組

(4) 就学にあたっての支援 【通級教室担当との連携】

特別支援教育Coと通級教室担当が、担任や学年主任と連携を取る。

特別支援教育Coは、保護者との面談までのアプローチの仕方や児童とのやりとりの仕方を取りもって、担任が難しいところをフォローし、支援が届きやすいように調整をする。

通級担当は、担任と同じ方向性をもって、少し距離を置いた客観的な視点で保護者にアプローチすることができる。

- 通級指導を受けている児童の担任と、通級指導担当との日々の情報交換



- 通級教室では、通常の学級で支援しにくい部分について、児童の困り感に寄り添った指導を行う



- 通級指導のほかにも、必要があれば面談や就学相談等を行いながら、児童の支援を行う

個別支援ができるようにするための取組

(4) 就学にあたっての支援 【通級教室担当との連携】

【就学後のアセスメント】
通級教室担当の指導の下、
「多層指導モデルMIM読み
のアセスメント」を行っている。

児童の「読み」のつまづきを
早期に発見し、支援につな
げるために 1年生に行ってい
る。

説明用紙●(テスト①表)

めざせ よみめいじん	
5	がつ
9	にち
1	ねん
3	くみ
8	ばん
なまえ	めざせ はなこ

① えに あう ことばを みつけよう

せんせいが「よい」というまで、
ひらいては いけません。

れんしゅう

まちがえたとき

かき きか ~~きさ~~ わこ ~~ねこ~~ ねい

MIM

— 11 —

©Gakken Emiral Co., Ltd.

個別支援ができるようにするための取組

(4) 就学にあたっての支援 【園や中学校との連携】

支援の実際

- ・ 中学校入学を機に支援学級に在籍する児童に、あらかじめ支援学級での生活の様子を伝え、心の準備ができるようにする。
- ・ 中学校入学後、支援学級には在籍しないが、特別な支援が必要な児童には、**通常学級で苦しくなったときの居場所や、本人が不安に思っていることについて中学校と連携し、対処法を伝えておく。**
- ・ 小学校入学前の年長児の保護者の見学、相談を随時受け付ける。**支援学級在籍予定の園児には、全体の体験入学とは別に、支援学級への体験入学も実施する。**

個別面談等の支援を受けたほとんどの児童が、新しい生活に見通しをもつことができ、進学後の生活のスタートを自分らしく切ることができた。

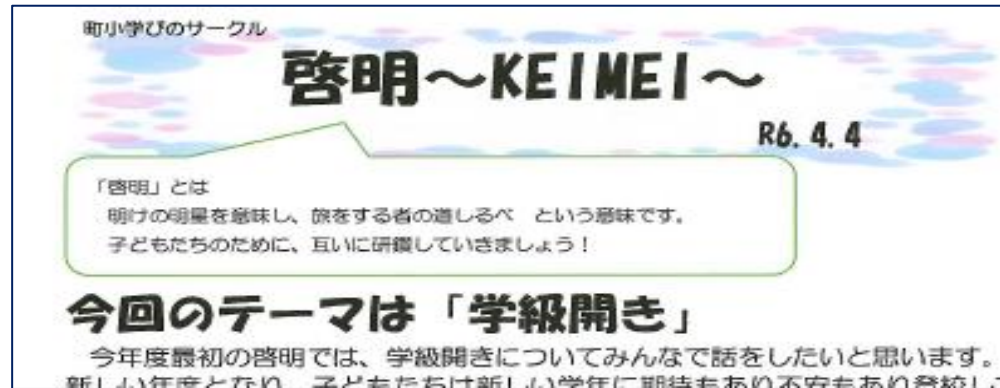
児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（１）学級づくりに関わること 【職員全体で学ぶ】

①学級開きの研修（４月、９月、１月）

研究主任が計画立案、

「どの教師も、困り感なく、子どもとの出会いや授業の作り方を共有して、スタートできるようにしたい」



参加した若手職員の感想

- ・担任として子どもと出会う初日の大切さがわかった。
- ・子どもに「よく見る」「よく聞く」の大切さを教えることの重要性を知ることができた。
- ・担任それぞれの方法や、学年に応じた方法があることを知ることができた。

②学級開き等で使えるゲームを教務主任が提案（各学期の仕事納め終会で）



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(1) 学級づくりに関わること【児童が安心できる環境作りを目指して】

①UDL研修、合理的配慮に関する研修

- ・ 外部講師や特支Coが講師になり、授業づくりや児童理解について職員で研修する。
- ・ 年度当初や夏季休業中に実施

②行事等に関わって

- ・ クラス全体…**見通しをもてるように**、プログラムや時間などを知らせておく。
- ・ 個人…行事への参加に不安があると担任等が見取った児童について、**支援学級担任等に個別の支援について相談し、アドバイスを受ける。**

③職員終会での情報共有

- ・ 各学年から、気になる児童の情報を提供する。
- ・ **これを機に、課題解決3主任会で支援を検討することもある。**

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

- (1) 課題解決3主任会について
- (2) 支援の実際
- (3) スクールカウンセラーとの連携
- (4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

- (1) 学級づくりに関わること
- (2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（２）学校全体の集団づくりに関わること

①縦割り班活動の本格的な再開の前に、学年間の活動から再開

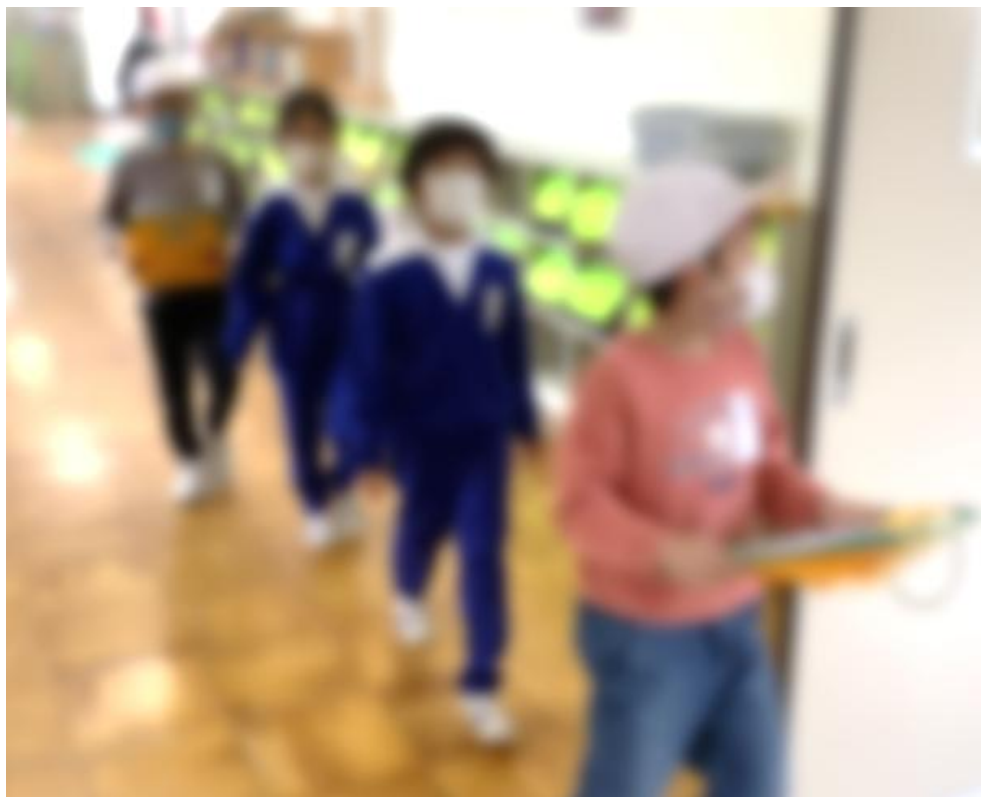
★１年生と６年生（朝の読み聞かせ、給食準備の補助）



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

★ １年生と２年生（入学後の学校探検、生活科の遊びランド）



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（２）学校全体の集団づくりに関わること

★ １年生と２年生（運動会での表現運動を教え、一緒に活動）



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（２）学校全体の集団づくりに関わること ２年生と３年生（学期末）

３年生国語「お気に入りの場所 教えます」→自分たちが３年生になるときに不安だった経験をもとに、**２年生が３年生になるのを楽しみにしてくれるよう、自分の好きな教科を紹介する。**

２年生「３年生は新しい勉強がたくさんあって、**楽しみにになった**」

「クラス替えが心配だったけれど、**少し安心した**」「英語の授業が**楽しみにになった**」

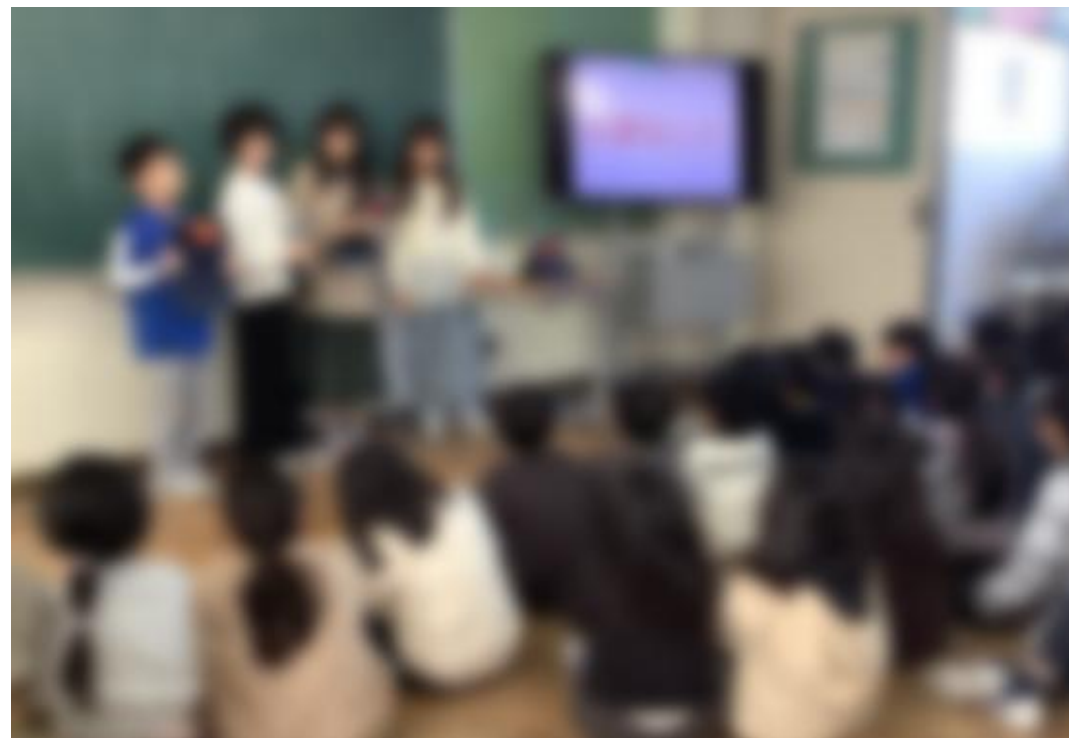


児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること 3年生と4年生 (学期末)

3年生→昨年度自分たちが2年生に教えたことを思い出し、4年生になるとどんな学習があるのか知りたいという思いをもつ→「4年生のことを教えてもらいたい」

4年生→3年生になるときに、不安なことを教えてもらって安心した経験を思い出し、4年生でたくさんの行事や新しい学習について、進んで内容を考えて伝えようとする。



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること 1年生と3年生

3年生国語「1年生におすすめの本を読み聞かせしよう」→「1年生にはこう言ったらわかるんじゃない？」**自発的に1年生のことを思いながら**、分かりやすい聞かせ方を工夫した。

1年生→「〇〇の本がとてもおもしろかったです」「読み方がとてもじょうずですごい」
「また絵本を読んでください」→3年生は手紙を読んでとても喜び、励みになった。



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（２）学校全体の集団づくりに関わること 2年生と5年生

2年生算数「かけ算」→楽しく覚えられるように何かしかけを…担任の思い→5年生へお願い

5年生 ファミリー班の下学年ともっと仲良くなりたい→2年生からの「かけ算先生」の依頼

「どうしたら、2年生が理解しやすいか」自分たちが2年生だったころを振り返って考える。

当番決め、カードの用意も自分たちで進んで行った。→自己有用感を高めた児童が特に積極的に参加



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

★ 5年生と6年生 (総合的な学習の時間で、ウォークラリーの準備)



児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

町小ウォークラリーの実施に向けた縦割り班活動



縦割り班ごとに旗作り



絵画展の鑑賞活動を
縦割り班で行う

児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

町小ウォークラリー当日



5・6年生が考えた
コースを歩く



チェックポイントで
みんなでお弁当タイム

児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

(2) 学校全体の集団づくりに関わること

環境委員会主導の花植え活動



1・6年生、2・5年生
3・4年生の同じ縦割り班の仲間で
教え合いながら植える



環境委員会が呼びかけ、草取りや
水やりに自主的に取り組む児童も。

児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくり

（２）学校全体の集団づくりに関わること

美化委員会主導の校内美化活動



委員会の呼び掛けで、様々な折り紙の作品を作り、校内に掲示



低学年には、折り方を教えながら一緒に活動

I 実践にあたって

II 実践内容

1 個別支援ができるようにするための取組

- (1) 課題解決3主任会について
- (2) 支援の実際
- (3) スクールカウンセラーとの連携
- (4) 就学にあたっての支援

2 児童のつながりや所属感を高めるための活動と環境づくり

- (1) 学級づくりに関わること
- (2) 学校全体の集団づくりに関わること

III 成果と今後の課題

実践の成果①

通常の学級を含めた特別支援教育を行う場合、障害があるから支援するのではなく、「困り感」を抱えていることで支援する対象にした。**課題解決3主任会において、児童の困り感の共通理解や改善策の検討を一元化**し、全校体制で支援を行うことで、その困り感が改善傾向になることを実感できた。また、児童同士のつながりや所属感を高める活動と環境づくりを行うことで、様々な場面で児童のつながりが構築でき、お互いの気持ちを認め合う集団を形成しつつあるのではないかと考えられる。

実践の成果②

縦割り班活動だけでなく、教科学習においても他の学年と関わることで、学年が上がることにに対する憧れを抱いたり、学年が上がることにに対する不安が和らいだりする効果があった。これらの活動は児童が「見通しをもつ」ことにつながり、多くの児童が次の学年へ進級できる喜びを感じることができた。

行事や初めての活動の前に、特支学級での自立活動として、活動の予習をしている。通常学級担任は日常的にその様子を聞いて、通常学級の児童にも見通しをもてるような支援が大切であると学んでいる。その上で、特支学級の担任と通常学級の担任が打ち合わせ等を行いながら、児童が安心して参加できる活動かを検討し、内容を組み立てることができる。特支学級担任の視点や配慮が、通常学級担任の支援のヒントになったり、支援が必要な児童の見取りに生かされたりしている。

今後の課題①

特別支援Coや特別支援教育部の計画により、特別支援学校から講師の先生をお招きしてのUDL研修や、合理的配慮に関する研修を行った。通常学級担任が特別支援教育に関する理解を深めることで、学級の誰でも合理的配慮を受けたり、個別最適な学びを選択できたりする理想的な環境に近づき、困り感を抱える児童も、支援を活用しながら学べるようになる考える。今後も、職員の異動や担当学級種の変更があっても、全職員が参加できる研修を重ねていきながら、児童の実態に合った支援方法を学んでいく必要がある。

今後の課題②

学級への所属感や児童同士のつながりをより強くしていくために、**スクールカウンセラーによる授業や、対話の基本的なスキルを身に付ける活動**（知育部主導で、各学年の実態に合わせて実践中）、**学年間の協働学習**を継続していく。また、多様化する児童の困り感に対応していくために、2・5年生で実施している**認知能力検査NINOの分析**（R8夏季休業中に実施）や、委員会活動の一環として**児童同士が自発的に関われる場の設定等**、今ある活動や場面を有効活用しながら、新たな支援の方法を探っていくことが必要である。